

群馬県立文書館

文書館だより

TEL 027 (221) 2346

URL <http://www.archives.pref.gunma.jp/>

第45号 平成20年3月



群馬県重要文化財に

指定された行政文書

平成十九年三月二十七日、文書館に所蔵されている群馬県行政文書一七、六二九点が群馬県重要文化財に指定されました。これらは、群馬県が誕生した明治時代から昭和二十二年に地方自治法が制定されるまでの約八十一年間に作成・取受・保存されてきたもので、当時の群馬県政を今に伝える貴重な歴史遺産といえます。

行政文書の文化財指定は全国的に見ても少なく、京都府及び山口県が国指定、東京都及び埼玉県が都道府県指定、群馬県はそれに続く指定となりました。

今回文化財指定となった行政文書は、永年保存文書がその中心となります。これらは、文書としての役割が一区切りついた後も、行政文書を保存することの重要性を認識していた当時の行政職員や、法的な後押しにより保存され、水い間県庁の文庫に大切に保管されてきました。

歴史的な文書を保存管理できる施設の必要性が叫ばれ、昭和五十七年四月に文書館を設置し、これらの行政文書が県庁から文書館へ管理を委任されました。

県民共有の財産であるこれら行政文書はどなたでも原本をご覧いただけます。

文書館へお出でいただき、群馬県の歴史をひもといてみませんか。

◇ 文化財指定となった「群馬県行政文書」の概要 ◇

○指定の範囲

明治時代初期～昭和22年の地方自治法制定までの群馬県行政文書で、文書館に保管されているもの

○指定文書について

書群名	点数	主な内容
明治期行政文書	3,606	県より管理委任を受け文書館が保管している行政文書のうち、明治期の文書。主な文書には、議会議事録、地籍台帳、神社明細帳、連合共進会、学校沿革誌、教員任免、等がある。
大正期行政文書	2,031	県より管理委任を受け文書館が保管している行政文書のうち、大正期の文書。主な文書には、覆災救助、大正博覧会出品録書、教員任免、大震災関係書類、等がある。
昭和戦前期行政文書	3,072	県より管理委任を受け文書館が保管している行政文書のうち、昭和戦前期の文書。主な文書には、県参事会議案、農林水産業統計、陸軍特別大演習関係書類、小学校・国民学校・中等学校任免、等がある。
明治期地図等	1,661	県より管理委任を受け文書館が保管している地図。横見耕地絵図、壬申地勢地引絵図（明治6年の地相改正条例の地勢発行の基礎資料となる土地所有権の公証。）、官有地地図、土木・河川関係図面、等がある。
議会図書室収集行政文書	3,341	県議会図書室収集文書として移管されてきた文書。主な文書には、群馬県市達全書、群馬県統計書など。明治・大正・昭和戦前期の行政文書を補うものである。
明治・大正・昭和戦前期行政文書(追加)	2,171	1981年から1991年までに文書館が県から受け入れた文書のうち、昭和20年以前に作成された文書。明治・大正・昭和戦前期の行政文書を補うものである。
群馬県報	339	明治19年「本県々令」より。通達の内容・範囲により県令・訓令甲・乙、告示、告諭、広告、報告等に分類される。
官報	1,408	日本国が発行した機関誌。明治16年7月創刊第一号より。
計	17,629	※分冊後の点数。

※現在、行政文書が文化財指定となっている都道府県は、

〔京都府行政文書〕	国指定重要文化財	15,407点	平成14年6月指定
〔東京府及び東京市関連行政文書〕	都指定有形文化財	33,042点	平成16年3月指定
〔山口県行政文書〕	国指定重要文化財	13,549点	平成17年6月指定
〔埼玉県行政文書〕	県指定有形文化財	7,971点	平成18年3月指定

〔群馬県行政文書〕はこれらに次いで群馬県指定重要文化財となりました。

特別展・企画展

未来へ引き継ぐ群馬の遺産

1行政文書とひもづく群馬の歴史

重要文化財指定を記念して、次のように展示会が開催されました。

特別展 平成十九年十二月七日(金)～

十二月十一日(火) 県庁

企画展 平成二十年一月十二日(土)～

五月二十五日(日) 文書館

九時～十七時十五分

休館日 曜日、祝日、月末日

文化財指定となった県行政文書は膨大な数です。今回の展示では、「県政のあゆみ」「県民のくらし」「産業・交通」の3つの大テーマを掲げ、それらに関連する資料約百点を運び、さらにそれらの資料を三十一のコーナーにまとめて展示しました。(以下はその抜粋です。)

○いろいろな地図

指定文書の中には様々な地図があります。中でも明治五年に作成された「壬申地勢地引絵図」は、千二百点を超えます。閲覧しやすいようにマイクロフィルム化してあります。文書館にお出でいただき、百三十年前の郷土をご覧ください。

また、大正期の前橋・高崎・桐生市全図をバネルにしました。現在との違いを比較してみるのも楽しいものです。

○県庁舎の変遷

明治庁舎の平面図や玄関前の写真、昭和庁舎の新築設計図など、県政の中心地である庁舎の変遷をビジュアルに展示しました。

○ぐんまの社寺

明治中期に描かれた社寺の見取図から、赤城神社・榛名神社・妙義神社・大光院を展示しました。色付きの見取図からは当時の様子が想像できます。

○ぐんまの鉄道交通

明治中期における県内鉄道敷設関係資料や、時代毎の県内鉄道敷設状況、貨車構造図面など。鉄道に興味のある人は一見の価値があります。

○気象と災害

群馬県は災害が少ないと思われがちですが、さまざまな災害が多大な被害を及ぼしました。明治二十九年には前橋湖検所が開所し、気象観測業務を開始しています。

○天皇乗輿

明治の御巡幸、昭和の陸軍特別大演習において県内を訪れています。昭和の大演習の際に撮影されたガラス乾板ネガには、当時の情景がありありと映し出されています。

○展示終了後であっても、お申し出いただければ展示パンフレットを差し上げます。その中から閲覧請求して下さい。

平成十九年度取蔵資料展1 武家文書の世界(一)

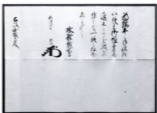
江戸時代中期の書生・書中の文書(一)開館報告

当館は平成十九年に開館二十五周年を迎えました。そこで節目の年にあたる本年度は、取蔵資料の新たな一面を提示し、より多くの方にご利用いただくために、約三六万点に及ぶ資料の中から、近世の幕府や上野国諸藩をはじめとする武家文書に焦点をあて、「武家文書の世界」をテーマに夏・秋の二度にわたる展示を実施しました。

取蔵資料展1では、江戸幕府の将軍と老中から出された御内書と老中奉書を中心に取り上げました。当館では、御内書三五点、老中奉書約五〇〇点を取蔵しており、それらの中から代表的なものを紹介し、古文書的基本的な見方や資料からわかることなどについて展示しました。七月十三日(金)から九月十六日(日)までの五日四間で、七二八人の方にご覧いただきました。八月二日(木)からは展示した資料のホームページ上で公開を始め、一〇〇人以上の方に見ていただいております。

展示を観覧された方からは、一枚の文書の中にも身分の上下が表れていた、大名の格式により言葉の表現が異なっていたりすることがよく分かった、とのこ

感想をいただきました。また、展示はすべて複製で行いましたが、実物の資料を見てみたいと、閲覧室を利用していかれた方もいました。



土岐山城守宛老中奉書
(角田光枝家文書)

平成十九年度取蔵資料展2 武家文書の世界(二)

上野國の大名と藩本の文書(一)開館報告

この展示は、取蔵資料展1に引き続き武家文書を取り上げ、前橋藩・沼田藩の藩士の宛行状や藩主願書などを素材に武家文書の見方を紹介しました。十月十二日(金)から十二月九日(日)まで、四六日間で五七六人の方にご覧いただきました。また、展示した史料は、十一月二十日(火)から文書館のホームページでも公開し、三四〇人以上の方に見ていただいております。

会場は、小テーマごとにコーナーを設け、藩士へ出された宛行状、藩から幕府へ出された願書、大名間の書状、沼田藩

主土岐頼知の母の手紙、旗本の文書などを展示、解説しました。中でも、宛行状の書式・形態が各藩ごとに決められていたことや、大名間でやりとりされた年始状や寒中見舞、母からの手紙は観覧した方々の興味を引いたようです。

また、本展示では文書に視しをもつていただくため、花押作成体験コーナーを設けました。これは、角田光枝家から寄託された二点の「花押の型」のレブリカを使って、大名の花押を作成することができると、多くの方々のご利用をいただき、「容易に作成することができて楽しかった」「どのようにして押されたものが良く分かった」とたいへん好評でした。

今後にも内容をわかりやすく提示するための工夫をし、より良い展示となるよう心がけていきたいと思っております。

土岐家花押の型(上)



レブリカから作成した花押(下)

文書館の情報満載

「ホームページ」

文書館HPの構成は、①利用案内、②文書館の仕事、③取蔵資料、④取蔵資料の検索、⑤ふるさと再発見講座、⑥インターネット古文書講座、⑦群馬の郷土史クイズ、⑧学校への支援、⑨刊行物、⑩データ集、⑪リンクから成っています。トップページには、①開館日休館日カレンダーや、②更新情報の履歴とともに、③新たな事業をトピックとして掲載しています。

「取蔵資料の検索」では、明治期「行政文書」のデータをもも公開しますので、「古文書・郷土資料」「図書・行政資料」とともに、情報検索にご活用ください。また、文書館での閲覧にあたり、事前に「文書閲覧票」を作成することも可能です。

「インターネット古文書講座」では、新たな史料を毎月二件ずつ追加し、また「群馬の郷土史クイズ」では、当館が所蔵する古文書や行政文書を読み解き、メールでご回答いただくコーナーを設けています。

■メールアドレスは、次のとおりです。照会やご意見等の通信にご利用ください。
support@archives.pref.gunma.jp

新たに収集した

行政文書

管理受任等 平成十八年度に管理委任及び引継により県の各機関から受け入れた文書は、一九六冊でした(詳細は表1のとおり)。

表1 平成十八年度管理受任文書の課室別冊数

課室名	冊数	課室名	冊数	課室名	冊数
学事法制課	52	自然環境課	19	道路企画管理課	67
市町村課	15	森林保全課	30	都市計画課	145
消防防災課	97	農業経済課	7	下水環境課	20
広報課	3	蚕糸園芸課	4	知事部局合計	942
土地・水対策室	51	農業基盤整備課	110	生涯学習課	161
保健福祉課	4	産業政策課	27	文化課	93
業務課	112	工業振興課	11	教育委員会合計	254
国保護課	13	労働政策課	11	総計	1,196
廃棄物政策課	73	用地課	71		



県庁での収集の様子

部局名	冊数
総務局	165
企画担当	100
保健・福祉・食品局	201
環境・森林局	479
農業局	281
産業経済局	163
県土整備局	336
県議会図書室	107
教委事務局	668
管理委任解除文書	253
合計	2,753

表2 平成十八年度収集文書部局別冊数

収集 平成十八年度の文書整理において県の各機関が廃棄した文書資料中から、文書館が歴史資料と認めて収集したものは、二七五三冊でした(詳細は表2のとおり)。なお、議会図書室からのものは郷土資料等。管理委任解除文書とは、保定期間が満了し、管理委任を解除された文書から収集したものである。

県有施設の記録を残す

ここ数年、県では公有施設の統廃合が進められています。建物とともに保存されている資料は、建物の歴史だけでなく、そこで過ごした人々の営みをも伝えてくれます。施設の統廃合によってこれらの資料を失うことなく後世に伝えられるよう、時には県立歴史博物館や県立図書館と共同の調査を実施し、次の四施設から文書資料の収集を行いました。

◎ 農業技術センター

昭和十二年、鑑定所として検定業務開始。平成九年農業技術センターと改称。同十六年度末をもって閉所(産業試験場に試験研究機能を移転)のため収集(十七年度受人)。受け入れた資料の一部は行政資料としてすでに公開。

◎ 社会教育館

昭和十一年、東国敬神道場として開館。同二十一年群馬県公民会館と改称。同三十一年群馬県立社会教育館と改称。平成十七年度より運営管理が富岡市へ移管されることに伴い収集(十七年度受人)。受け入れた資料の一部は受贈図書としてすでに公開。

◎ 県立藤岡高等学校

明治三十年、群馬県尋常中学校中野分校として創立。同三十四年群馬県藤岡中学

として独立。昭和二十三年群馬県立藤岡高等学校と改称。平成十八年度末をもって閉校(藤岡中央高等学校へ統合)のため収集(十八年度受人)。

◎ 県立安中高等学校

大正十年、碓氷郡立碓氷高等女学校として開校。同十二年群馬県安中高等女学校と改称。昭和二十三年群馬県立安中高等女学校と改称。平成十九年度末をもって閉校(安中総合学園高等学校へ統合)のため収集(十九年度受人)。

今後も、貴重な資料が廃棄されないよう、各関係機関と協力しながら調査を実施していきます。



社会教育館における資料収集の様子

新たに収蔵された

古文書

〔寄贈・寄託古文書〕

（平成十九年一月以降）

○藤岡市藤岡・松田実家文書

酒井家前橋藩領の村々石高史料一点。

○前橋市天川大島町・見目百合子家文書

明治以降県内の写真・絵葉書五点。

○東京都小金井市・尾崎忠男家文書

尾崎家由緒書・写真二点。（追加寄託）

○東京都杉並区・遠藤昌孝家文書

西塚梅子（水水堅曹姉）の写真・錦絵

等四点。（寄託）

○千葉県船山市・佐藤統太郎家文書

学校・河川工事等写真四一点。（寄贈）

○前橋市東大室町・松村孝志家文書

近世く近代の東大室の村方文書、松村

家の指擴文書など約六〇〇点。（寄贈）

○藤岡市立石新田・川瀬家文書

明治期以降の川瀬家経営史料・書簡等

一三二六一点。（寄贈）

○長野県町・浦野安孫家文書

修験・神職関係、近世林村関係、和本

類等二九七九点。（追加寄託）

○安中市原市・安中市教会文書

「上毛教界月報」等一〇点。（寄託）

○前橋市城東町・角田光枝家文書

沼田藩土岐家伝米花押型二点。

（追加寄託）

○玉村町・清水純家文書

飯倉河岸関係文書約二〇〇点。（寄託）

○松井田町五科・中島徳彦家文書

手習い・和本等約二〇〇点。（追加寄託）

○みなかみ町猿ヶ京温泉・林強一氏収集

文書

利根郡内で収集された和本類・教科書

類等約五〇〇点。（追加寄託）

○前橋市日輪寺町・天野一男家文書

和本・教科書類約六〇点。（寄贈）

○長野県町原桑・黒瀬有治家文書

近世から明治期の原桑村関係、北白川

宮関係、書簡類等約三〇〇点。（寄託）

○前橋市大胡町・中島正家文書

宮岡村・大胡村関係文書、中島家・大

川家の私的文書等約一〇〇〇点。（寄託）

○マイク口収集集文書

○明治期「郷土誌」

新たに次の三点を収集しました。

大胡町上大屋区有文書（当館寄託）

「大胡町郷土誌」

吉田允俊家文書（当館寄託）

「群馬県郷土誌 全」

高橋洲家文書（当館寄贈）

「神川村郷土誌」

新たに閲覧できる

古文書

〔寄贈・寄託古文書〕

○前橋市城東町（在存地：沼田藩土岐町）・角

田光枝家文書（追加分）

江戸時代から昭和初期にかけての史

料、沼田藩から伝来した土岐家関係文書

の老中奉書は点数も多く、幕府と沼田藩

との関係を知る上で貴重な資料です。

一五五八点（P九〇〇四）

○利根村楠平（在存地：沼田藩土岐町）・利根村

楠平区有文書

村方名主文書で、主に村政・戸口・貢

租に関するもの、特に年貢割付状・皆済

目録・諸役金請取が全体の六割程度を占

めています。三二八二点（P九八〇八）

○前橋市日輪寺町・前橋市日輪寺町自治

会文書

元禄二年檢地帳や近・現代資料です。

昭和戦後期の自治会運営関係が中心で、

中には上武国道工事関係等が含まれて

います。五五四点（P八六〇二）

○吾妻町（在存地：沼田藩土岐町）三島・高橋忠克家文

書

高橋家私的文書の他、大正・昭和初年

の吾妻銀行等地元企業の営業報告書六〇

点を含みます。一一五一点（P九三〇五）

○前橋市日吉町・徳永文二家文書

内容は「蝦夷国風図絵」と記された風

俗画です。宝暦年間に活躍したアイヌ風

俗画家小玉貞良の描いたもの模写と考

えられます。一九点（P〇九三〇）

○前橋市千代田町・関口隆家文書

県立前橋女子高文芸クラブ発行の文芸

ノートや同校の新聞（ともに昭和二十四

年発行）等です。五一点（P〇九四〇三）

○前橋市城東町・高澤彦作家文書

安政四年の年代記載のある覚帳です。

ろうそく・紙・茶など雑貨の品代が書き

上げられています。一点（P〇九四一〇）

○藤岡市高山・坂本計三家文書（追加分）

高山村関係文書と坂本家の私的文書で

す。役場関係文書には農業・選挙・小学

校増築等村政に関わる資料があります。

一五七九点（P八二〇二）

○マイク口収集集文書

○安中市・安中藩板倉家系中藤田家文書

安中藩の御奉行や勘定奉行等を歴任し

たり、江戸藩邸に詰っていた際の文書や

記録類、藩主板倉家関連の系譜などが中

心です。明治時代以降では、藤田朝が明

治中期に修史館や帝國博物館に勤めてい

た頃の日記・記録類が特徴的です。

三三七点（P八四〇八）

○沼田市・沼田藩土岐家文書（追加寄託）

土岐家系譜をはじめ、歴代藩主位記・

官符・口宣家、朱印状写・領知目録など

の藩政の基本資料のほか、家臣巨細書、藩治職制、公用日記、兵法・茶道の秘伝書、藩校「沼田学舎」関連資料等です。

一四二点（F P 八六〇八）
勢多郡赤城村・藤川正衛家文書

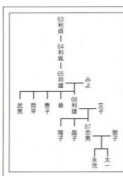
持粕木村関係文書と藤川家私的文書です。持粕木村関係では、元禄二年・宝永八年の新旧検地帳などがあります。藤川家私的文書は田中小作証文、奉公人請状等の証文関係が中心です。査査関係では持粕木（社）関係文書が約一〇〇点あります。七七八点（F P 九八〇二）

邑楽郡明和町・塩谷正久家文書

川俣所関係や利根川加用水組合関係の文書が中心です。明治期以降では川俣

訂正のお知らせ

群馬県立文書館収蔵文書目録22目録・高岡地区諸家文書（一）所収の「尾崎忠実家文書（請求番号P 八二五）」解題11頁（図8）の系図に誤りがありますので訂正してお詫言申し上げます。正しくは次のようになります。



村戸長役場・佐賀村役場関係文書があります。七六二点（F P 〇二〇八）

邑楽郡東妻善町・小林備能家文書

江戸時代後期の太戸村の村政関係文書です。稲田組関係、天保飢饉以降の備荒・救恤関係、中山道坂本宿・軽井沢宿・大戸間所等の交通関係文書などもあります。六四二点（F P 〇三〇八）

Q&A レファレンス コーナー

Q 家に木箱に入った古文書があるので、簡単な保存の仕方を教えてください。

A 昔の人は、衣類の虫除けに「目通し、風通し」と言い伝えてきましたが、古文書の保存にも通じるところがあります。こまめに点検し、湿気の少ない場所に保管することが基本です。その他、次のことが簡単な方法としてあげられます。

- ①埃払い…古文書の埃やゴミ、虫の死骸や糞などを柔らかい刷毛で払う。
- ②虫干し…年一、二回、外気にあてる。
- ③保存箱…湿度の影響を受けない桐箱などの木製容器に入れる。湿気の少ない場所ならダンボール箱でもよい。封筒などを併用するとより効果的。
- ④防虫剤…パラジクロロベンゼン製等の

防虫剤を入れる。ナフタレンや樟脳はあまり効果が期待できない。異種の薬剤は化学反応により紙を汚す恐れがある。

⑤質問の場合には、まず古文書や木箱を点検し、埃やカビの有無、虫やネズミにかじられていないかなどを調べ、保存状態が良好な場合には虫干しを定期的に行う。虫干しは、ついでに心配ないでしよう。虫干しは、雨の直後や梅雨期などを避け、春や秋の晴天乾燥日に直射日光が当たらないように日陰干しにしよう。

埃やゴミがある場合には、虫やネズミの餌や棲み処になる危険性があるので、埃払いをし、封筒に入れてから木箱に戻すか、木箱で埃が防げない場合には新しい箱に入れ替えることも考えられます。カビがある場合には、埃払いの後、カビが発生している古文書とそうでないものとを箱や封筒で分け、湿気の少ない場所に移動させます。虫が心配な場所には、保管場所を変え、埃払いの後、防虫剤を入れ替えます。

破損がひどい場合には、封筒に入れてから箱に保管しておくとか劣化を遅らせます。写真やコピー等で代替物を作り、できるだけ出し入れの回数を減らすことも有効です。また、古文書の補修に、化学のり・セロハンテープ・ホチキスなどは使用しないで下さい。紙自体を補める原因となります（輪ゴム・クリップなども

同様）。

なお、古文書が土蔵にある場合には、湿気の少ない二階で雨漏りの心配のない場所に保管することが望ましいでしょう。また、古文書の中には包紙入りのもの、紙や袋でまとめられているもの、箱に整理して入れられているものなどがあります。それらは、個々の古文書の意味や関連性などを知る重要な手掛かりになることがありますので、古文書を見た時、虫干し等を行った際には、元の状態に戻すことを原則とし、別の箱に入れ替えるような場合には、元の状態を絵や写真などで記録しておくことも大切です。

古文書は家の営みを示す貴重な証ですので、後世に大切に伝えていきたいものです。当館では、古文書の保存の仕方等の相談も承っておりますので、お気軽にご相談ください。

（刷毛による埃払いの仕方）



新たな視点で

「ふるさと再発見講座」

開催

文書館が地域に出向き、地域の人々とともに、地域の歴史資料を引き出して、新たな視点で地域文化を紐解くことを目指して、今年度から「ふるさと再発見講座」を開催しました。

第一回「前橋市文京町」二月九日(土)、文書館のある地元の方々と交流したいと願って、文書館研修室で第一回目を開催しました。講演「文京町の斜め道路」(講師：秋池武・文書館長)では、JR前橋駅の東から東南方向にはしる道路の一部が住宅街の所々に残っているが、これは平安時代に開削された用水の跡であること、また、赤城山南麓に位置するこの地域は、室町時代までは利根川右岸にあたる榛名山系の東群馬部に属していたこと、の話に参加者全員が聞き入っていました。文京町自治会長の齋藤康之さんは、地域に暮らす視点から、地域の今昔について知られざるお話をしてくださいました。

第二回「榛名神社家町」二月十五日

(金)、榛名山の雲地榛名神社において、午前中に「神楽始式」を拝観、午後には榛名町史編さん室長の清水喜臣さんにご講演いただきました。

境内のあちこちに残雪を見るまだまだ寒い時期でしたが、この日はやはり何とも良い天気。明治初年の神仏分離、里の家数が激減した大正期、終戦後の破壊した時期と幾多の危機を乗り越えて伝えられた神代神楽には、伝統の重みがありました。

門前の参道両脇に並ぶ坊のひとつ(般若坊)を会場に実施した講演では、「榛名山巖藏寺 役中諸用記」などの古文書をもとに、堀原太助が奉納した常夜灯や玉垣について、お話いただきました。堀原太助(一七四三～一八一六)とは、沼田藩新治村から江戸に出て、裡一貫から身を起こした人物です。一本所に過ぎたるもの二つあり、津軽屋敷に炭屋堀原



雪の残る榛名神社、御神楽奏上

とうたわれるほど大成しました。常夜灯や玉垣の寄進は、ふるさと上州の地に、成就のお礼をしたものでしょう。

平成二十年年度予定は、次のとおり。

■第三回：七月二十三日(水) 沼田市 徳川・利根川の水運

■第四回：九月十七日(水) しみなかみ町須川・三国街道須川宿

■第五回：十一月五日(水) 前橋市総社・宗良前回の山王施寺

全国歴史資料保存利用

機関連絡協議会

第三十三回全国大会(茨城)

公文書等の保存施設一六二機関で構成する全国歴史資料保存利用機関連絡協議会の第三十三回全国大会が、平成十九年十一月二十日(水)から二十二日(木)までの三日間、茨城県水戸市で開催されました。

「アーカイブズの新时代」個性ある存在をめぐって」を大会テーマに、個人会員を含む約二五〇人が参加して、活発な議論が展開されました。

全体会では、「日本のアーカイブズとその未来」及び「茨城県立歴史館における公文書保存の現状」と題して、それぞれ、日本経済新聞社編集局文化部編集委員の松岡資明氏並びに茨城県立歴史館

の堀津俊之氏から報告がありました。全体会日では、「みんなが足を運びたくなる文書館をめざして」(高木秀彰：寒川文書館、「次世代の考えるアーカイブズ像」(富田健司：芳賀町)、「21世紀」建築アーカイブズの設立の意義と未来」(笠寛暁：金沢工業大学)の三分科会を経て、議論が深められました。

また、研修会として、「文書館入門」

(原田美子：埼玉県立文書館)、「法からみる公文書館制度」(早川和宏：大宮法科大学院大学)、「歴史資料の保存・修復・活用と継承者の育成」(西村慎太郎：日本学術振興会)、「市区町村公文書館の現状と課題」(鈴木直充：板橋区立文書館)、「公文書館と一実務屋の視点」(清水一也：沖縄県公文書館)、「アーカイブズを次世代に」(金山正子：元興寺文化財研究所)が実施されました。

本年は公文書館法公布二十年の節目を迎え、今年記録年録、護国艦航海日誌の廃棄、薬害肝炎患者の記録放置問題等、周知のとおり我が国の記録管理制度に深刻な問題が発生し、政府において公文書管理法の制定が検討されています。これからますます、アーカイブズが重要になるものと思われれます。

なお、全史料協ホームページ (<http://www.zenri.or.jp>) に大会の概要が掲載されています。

告知板

郷土資料、
好評販売中!

○『群馬県行政文書目録』第18集 〔明治期往復・議会・人事編〕の発行

本目録は、『群馬県行政文書簿目録第1集』明治期行政文書編の分類項目中「往復」(議会)、「人事」に類別されている簿冊一九八冊に属する文書から、二八九四件を収録した細覧用の文書目録です。それと細目を設定し、検索の便を図っています。

○『群馬県立文書館収蔵文書目録』第25集の発行

本目録は、『群馬県立文書館収蔵文書目録』第25集(利根・沼田地区諸家文書(3))として、沼田土之町を伝存地とする角田光枝家文書(前橋市城東町、白沢村平出の小野武男家文書(現沼田平出)、利根村柿平の利根村柿平区有文書(現沼田市利根町柿平)、月夜町月夜野の中岡均家文書(現みなかみ町月夜野)、新治村須川の笠原惣代文書、笠原壮健文書(現みなかみ町須川)、新治村相模保の竹内俊風氏取集文書、筋木ふう子家文書(現みなかみ町相模))の計八件の史料を取録しています。なお、同地区の「収蔵文書目録」としては第1集・第4集・第18集があります。

群馬県立文書館では、『群馬県史』(全37巻)、「ぐんま史料研究」(年一回刊行)、研究紀要「双文」(年一回刊行)、学校・一般向け資料集「授業で使えるぐんまの資料」、「元禄十五年上野国絵図パズルキット」等の郷土資料を販売しています。数に限りがあり、残部の少ないものもありますので、お早めにご購入ください。

内容・刊行状況につきましては、文書館ホームページ <http://www.archives.pref.gunma.jp> をご覧ください。なお、在庫・購入に関するお問い合わせは、文書館までお電話ください。

あゆみ

- 〔平成18年度〕
- 1・12 県立吉井高校群馬学講座講師派遣(1・19)
- 1・24 群馬協主催・文書館後援「文書等保存管理研修会」開催(全史料協関東支部共催)
- 1・26 県庁特別展「ぐんま・学びと子ども子育て300年」寺子屋から近代教育への歩み」開催

〔1・30〕

2・6 企画展「ぐんま・学びと子ども子育て300年」寺子屋から近代教育への歩み」開催(5・27)

3・31 『群馬県行政文書目録』第18集(明治期往復・議会・人事編)刊行

3・31 『群馬県立文書館収蔵文書目録』第25集(利根・沼田地区諸家文書)刊行

3・31 文書館紀要「双文」第24号刊行

〔平成19年度〕

5・25 文書調査委員会開催

5・26 古文書入門講座(5・23、全5回)

6・6 群馬協総会・講演会

7・2 行政文書の受任・引継取集(県庁、教育委員会)5・7・6、9

7・13 史料展示(1)「武家文書の世界(1)―江戸時代の将軍と老中の文書」(5・9・16)開催

7・27 『県立文書館子ども探検隊』(8・17、全4回)を開催

7・28 長期古文書講座(5・11・24、全14回)の開催

10・12 史料展示(2)「武家文書の世界(2)―上野国の大名と旗本の文書」開催(5・12・9)

11・17 公開講座「江戸出府日記の世界」太田尚宏(徳川林政史研究所主任研究員)

11・24 公開講座「関東大震災の救済活動と群馬県」北原系子(神奈川県大学特任教授)

12・2 文書館ふるさと再発見講座(前橋市文京町)

12・9 文書館ふるさと再発見講座(榛名町)

1・15 公文書等保存専門講座の開催(高崎市役所)

2・18 文書館運営協議会開催

2・20 「ぐんま史料研究」第25号刊行

3・7 群馬協主催「公文書等保存管理研修会」開催

案内図



発行 群馬県立文書館
〒371-8582 前橋市文京町 1-10-1
印刷 松本印刷工業株式会社
字/岡庭正人書